

「取材の自由を守ろう！市民の「知る権利」の侵害を許しません！ 宗教者共同声明」への賛同者の声

政権に慣れ合いの記者が多い中、真実に迫る質問を抑えつける対応には断固抗議します。勇気ある記者を支援します。(男性)

政府のスポークスマンは、質問に丁寧に答える義務があるはずです。「事実誤認」なら、どこが誤認なのかを説明すればいいだけのことです。(女性)

「知る権利」が犯される、「表現の自由」が侵されるのを、黙って看過ごすわけにはいきません。「ファクト」を確かめるために質問をする、質問を続けるのは記者として「当たり前」の姿です。その当たり前が歪められているのを、見て見ぬ振りをするのが出来ましようか。砂粒のような存在ではありますが、「見張り」の使命を覚えつつ、ここに賛同と連帯の意を記します。

このキャンペーンに一人でも多くの賛同が寄せられ、「知る権利」の最前線に立っている記者の励ましとなりますように。(男性)

映画「ペンタゴン・ペーパーズ最高機密文書」から「建国の父たちが報道の自由に対し保護を与えたのは、報道が民主主義に不可欠な役割を果たすからです。報道機関が仕えるべきは統治者ではなく国民です」

「ご飯論法」や「信号無視話法」を叩き、「大本営発表」の真偽を質すジャーナリス

トの仕事は、「正当な代理人としての政府を選出する義務」を果たそうとする主権者市民に不可欠ですから、都合の悪い質問に答えたくないならば「閣僚とりわけ官房長官」を辞めればよいだけのこと。巧妙に質問を構成し政権のウシロメタさを浮かび上がらせる技法は優秀なジャーナリストが“プロとして”当然備えるべき資質でしょう。公衆の面前で問い詰められてイジケルのはカッコ悪いですよ。この際与党の「大物」として言いたい放題喚くのが精神衛生上よろしいのでは？(男性)

菅官房長官の態度に憤りを感じる。望月記者の質問は当然のこと。政治家が質問を妨害阻止するなど暴挙である。(男性)

私も宗教者？です。現在、創価学会から弾圧受けてる身です。市民の知る権利を守り、悪事をひた隠しにする公明党創価学会の悪事を満天下に晒したいです。(男性)